

## 国内学会

- 1)川口悠介・三寺史夫(北大低温研)：オホーツク海北西陸棚域における DSW 形成と輸送に関する数値的研究(2008年3月27日、日本海洋学会春季大会)
- 2)小野純、大島慶一郎、内本圭亮、三寺史夫：高精度オホーツクモデルによるアムール川および北西陸棚起源水の流動シミュレーション (2008年3月27日、日本海洋学会春季大会)
- 3)中野渡拓也・三寺史夫・本井達夫・大島慶一郎・石川一郎：北太平洋西部における中層水の数十年スケールの低温化：循環境界を横切る輸送量の影響 (2008年9月10-11日、東京大学海洋研究所国際沿岸海洋研究センター研究集会)
- 4)三寺史夫・松田淳二・中村知裕・内本圭亮・中野渡拓也・江淵直人：オホーツク海熱塩循環の数値実験 (2008年7月17日、海環境と生物および沿岸環境修復技術に関するシンポジウム)
- 5)川口悠介・三寺史夫：沿岸ポリニア下の DSW 形成に対する岸沿い風の影響～オホーツク海への応用～ (2008年9/24～28 日本海洋学会秋季大会)
- 6)藤崎歩美 (東大工・環境海洋)・山口一 (東大工・環境海洋)・三寺史夫 (北大低温研)：オホーツクにおける高解像海水結合シミュレーション：DSW 生成過程に関する調査 (2008年9/24～28、日本海洋学会秋季大会)
- 7)川島正行、大竹秀明、藤吉康志 大竹秀明：寒気吹き出し時に日本海北部に発生する太い筋雲の形成メカニズム (2008年12月16日、札幌日本気象学会北海道支部研究発表会)
- 8)大島和裕・谷本陽一：中緯度大気海洋系10年スケール変動の再現性とその将来変化に関する研究 (2008年1月、環境省推進費 s-5-ミーティング)
- 9)大島和裕、谷本陽一：CMIP3 における北太平洋10年規模変動の再現性 (2008年5月、日本気象学会年春季大会)
- 10)大島和裕・谷本陽一：北太平洋10年スケール変動の再現性と将来変化 (2008年7月環境省推進費 s-5-ミーティング)
- 11)大島和裕、谷本陽一：CMIP3 気候モデルにおける北太平洋10年規模変動の再現性と将来予測 (2008年11月、日本気象学会2008年秋季大会)
- 12)立花義裕、大島和裕、小木雅世：アムール川流量の変動と大気水蒸気フラックス、アジアモンスーンとの関連 (2008年11月、日本気象学会秋季大会)
- 13)大島和裕、谷本陽一：CMIP3 気候モデルにおける北太平洋10年規模変動の再現性と将来予測 (2008年11月、CMIP3 マルチ気候モデル比較に関する研究会)
- 14)古関俊也、渡部雅浩、谷本陽一、謝尚平：黒潮続流域における中規模 SST 偏差が総観規模擾乱に与える影響 (2008年5月 日本気象学会春季大会)
- 15)古関俊也、渡部雅浩、谷本陽一、謝尚平：黒潮続流域における中規模 SST 偏差が総観規模擾乱に与える影響 (2008年9月、大槌シンポジウム)

- 16)兼成智久、谷本陽一：冬季黒潮続流域における高解像度海洋気象データセットの解析  
(2008年9月、大槌シンポジウム)
- 17)谷本陽一：大気直接観測による中緯度大気海洋相互作用の研究に関するレビュー  
(2008年9月 大槌シンポジウム)
- 18)阿部祥子、磯田豊、矢幅寛：春季の宗谷暖流沖合域に形成される反流 (2008年9月24日-28日、日本海洋学会秋季大会)
- 19)小埜恒夫、西岡純、中村知裕、三寺史夫：冬期親潮域表層への溶存鉄供給過程の詳細観測－HK0801航海概報－ (2008年9月24日-28日、日本海洋学会秋季大会)
- 20)西岡純、小埜恒夫、紀本英志、中村知裕、坂岡桂一郎：親潮域表層における微量栄養物質(鉄)の広域水平分布自動観測 (2008年9月24日-28日、日本海洋学会秋季大会)
- 21)中村知裕、西岡純、小埜恒夫、三寺史夫："冬季親潮域における表層鉄濃度と水塊構造の関係：鉄の表層回帰" (2008年9月24日-28日、日本海洋学会秋季大会)
- 22)三寺史夫、松田淳二、中村知裕、内本圭亮、中野渡拓也、江淵直人：風の強制と結合したオホーツク海の熱塩循環 (2008年9月24日-28日、日本海洋学会秋季大会)
- 23)笹島雄一郎、羽角博康、中村知裕：オホーツク海における高密度陸棚水形成の感度実験 (2008年9月24日-28日、日本海洋学会秋季大会)
- 24)上原裕樹、中村知裕、西岡純、小埜恒夫、三寺史夫：北太平洋亜寒帯西部における上層成層の変動 (2008年9月24日-28日、日本海洋学会秋季大会)
- 25)内本圭亮、中村知裕、松田淳二、西岡純、三寺史夫：オホーツク海中層循環のモデリング－鉄循環のモデリングを目指して－ (2008年3月26日-30日、日本海洋学会春季大会)
- 26)中村知裕、三寺史夫：環オホーツク圏領域気候モデル (2008年3月19日、北海道大学第6回HSSワークショップ)
- 27)中村知裕、三寺史夫：オホーツク海中央部に於いて中冷水の下に見つかった低塩・低温アノマリ (2008年3月14日、Blue Earth '08 第11回みらいシンポジウム)
- 28)中村知裕、西岡純、三寺史夫、小埜恒夫：冬季親潮域における表層鉄分布と水塊構造の同時観測 (2008年2月21-22日、北海道大学、環オホーツク地域における気候変動・環境変動のモデリングと予測可能性に関するワークショップ)
- 29)久保川陽呂鎮・藤原正智・那須野智江・佐藤正樹：全球・非静力学大気モデルを用いた対流圏界面領域の解析－水惑星実験の結果を用いて－ (2008年2月28日、相模原第22回大気圏シンポジウム)
- 30)坂崎貴俊・藤原正智：WINDAS データを用いた下部対流圏の風の日変動の解析 (2008年5月18~21日、日本気象学会2008年度春季大会)
- 31)藤原正智・長谷部文雄・塩谷雅人・荻野慎也・岩崎杉紀・Holger Voemel・柴田隆・西憲敬・稲飯洋一：熱帯西太平洋域における水蒸気・オゾンゾンデ観測キャンペーン (2007年1月・2008年1月) (2008年5月25日~30日、日本地球惑星科学連合2008年大会)
- 32)森岡浩・藤原正智・塩谷雅人・Anne M. Thompson・Jacquelyn C. Witte・Samuel J.

Oltmans : SHADOZ データによる熱帯オゾンの季節変動と年々変動 ( 2008 年 5 月 25 日  
～30 日、日本地球惑星科学連合 2008 年大会)

33)久保川陽呂鎮・藤原正智・那須野智江・佐藤正樹 : Analysis of the tropical tropopause  
layer using the global nonhydrostatic atmospheric model (2)(2008 年 5 月 25 日～30 日、  
日本地球惑星科学連合 2008 年大会)

34)藤原正智・岩崎杉紀・清水厚・塩谷雅人・稲飯洋一・長谷部文雄・松井一郎・杉本伸夫・  
岡本創・西憲敬・濱田篤・坂崎貴俊・米山邦夫 : 西太平洋の熱帯対流圏界層 (TTL) にお  
ける cirrus の観測 ( 2008 年 9 月 25 日～26 日、第 2 回赤道大気レーダーシンポジウ  
ム・第 105 回生存圏シンポジウム)

35)久保川陽呂鎮・藤原正智・那須野智江・佐藤正樹 : 全球非静力学大気モデルを用いた熱  
帯対流圏界面領域の解析 (2008 年 9 月 25 日～26 日、第 2 回赤道大気レーダーシンポジウ  
ム・第 105 回生存圏シンポジウム)

36)野村大樹・石川正雄・高塚徹・河村俊行・白澤邦男・吉川(井上)久幸 : 海氷融解期にお  
ける大気・海氷間の CO<sub>2</sub> フラックスについてーオホーツク沿岸サロマ湖での氷上観測  
(2008 3 月、日本海洋学会)

37) NOMURA Daiki, SHIRASAWA Kunio, GRADINGER Rolf, EICKEN Hajo : Air-sea  
ice CO<sub>2</sub> flux over landfast sea ice in the Arctic Ocean, off Barrow, Alaska(2008 年 12 月、  
XXXI Symposium on Polar Biology)

38)柴野良太, 山中康裕, 岡田直資, 鈴木真一, 中田隆, 新野宏, 虎谷充浩, : 台風に対する海  
洋生態系の応答のモデリング (2008 年 12 月 12 日、W-PASS 台風ワークショップ)

39)柴野良太, 山中康裕, 岡田直資, 鈴木真一, 中田隆, 新野宏, 虎谷充浩 : 台風に対する海  
洋生態系の応答のモデリング (2008 年 12 月 11 日、東大海洋研究所シンポジウム"亜熱帯  
海洋学の最前線")

40)屋良由美子, 藤井賢彦, 山中康裕, 岡田直資, 山野博哉, 大島和裕 : 地球温暖化に伴う水  
温上昇が南西諸島近海のサンゴに及ぼす影響評価 (2008 年 11 月 22 日～24 日、日本サン  
ゴ礁学会第 11 回大会)

41)中尾有伸, 山野博哉, 藤井賢彦, 山中康裕, : 日本のサンゴ礁被度の変遷 (2008 年 11 月  
22 日～24 日 日本サンゴ礁学会第 11 回大会)

42)奥西武, 伊藤進一, 吉江直樹, 山中康裕, 須股浩, 橋岡豪人 : 個体群密度効果がマイワシ  
の成長および分布に与える影響 (2008 年 11 月 11 日～13 日、2008 年度水産海洋学会研究  
発表大会)

43)志藤文武, 森岡泰三, 福永恭平, 村上直人, 市川卓, 白藤徳夫, 小林圭介, 関谷幸生, 伊  
藤進一, 上野康弘, 山中康裕 : サンマ飼育魚の遊泳速度 (2008 年 11 月 11 日～13 日、2008  
年度水産海洋学会研究発表大会)

44)重光雅仁, 山中康裕, 渡辺豊, 前田亘宏, 乗木新一郎 : 生態系モデルを用いた沈降粒子中  
窒素安定同位体比の季節変動の解析 (2008 年 9 月 17～19 日、2008 年度日本地球化学会年

会)

45)須股浩, 橋岡豪人, 坂本天, 鈴木立郎, 山中康裕: 渦許容全球モデルによる低次生態系再現実験 (2008年9月24-28日、2008年度日本海洋学会秋季大会)

46)柴野良太, 山中康裕, 岡田直資, 中田隆, 鈴木真一, 新野宏: 台風に対する海洋生態系の応答 (2008年9月24-28日、2008年度日本海洋学会秋季大会)

47)橋岡豪人, 奥西武, 坂本天, 伊藤進一, 山中康裕: 高解像度海洋生態系-水産資源モデルによる地球温暖化の影響予測 (2008年9月16日-17日、次世代スーパーコンピューティング・シンポジウム 2008)

48)吉江直樹, 伊藤進一, 小松幸生, 亀田卓彦, 小埜恒夫, 清水勇吾, 笥茂穂, 田所和明, 齊藤宏明, 山中康裕: 親潮生態系の動態解明に向けて -生態系モデルからのアプローチ- (2008年8月4日、東京大学海洋研究所共同利用研究集会「水塊構造の時空間変動と高頻度連続観測による親潮生態系の動態解明」)

49)山本彬友, 山中康裕, 田近英一, : An estimation of the methane flux from the seafloor reaching the atmosphere (2008年5月25日-30日、日本地球惑星科学連合 2008年大会)

50)山中 康裕: 地球温暖化や海洋酸性化の海洋生態系および海洋物質循環に対する影響 (2008年5月25日-30日、日本地球惑星科学連合 2008年大会)

51)倉橋貴純, 阿部彩子, 山中康裕: 海洋の物理的变化が及ぼす大気二酸化炭素濃度への影響: 氷期-間氷期サイクル (2008年5月18日-21日、日本気象学会 2008年度春季大会)

52)吉江直樹, 小松幸生, 伊藤進一, 小埜恒夫, 田所和明, 齊藤宏明, 山中 康裕, : 生態系モデルによる親潮域・混合水域における低次生態系の経年変化の再現 (2008年3月26-30日日本海洋学会 2008年度春季大会)

53)奥西武, 伊藤進一, 山中康裕, 橋岡豪人, 須股浩: マイワシ北太平洋群の回遊行動モデリング 2008年3月26-30日、日本海洋学会 2008年度春季大会)

54)橋岡豪人, 坂本天, 山中康裕, : 地球温暖化に対する海洋生態系の応答 ~高解像度海洋生態系モデルによる予測~ (2008年3月26-30日、日本海洋学会 2008年度春季大会)

55)伊藤進一, 志藤文武, 山中康裕, 橋岡豪人, 高須賀明典, 奥西武: 沖合小型浮魚類への温暖化影響 (2008年3月26-30日 日本海洋学会 2008年度春季大会)

56)山中康裕, 岡田直資, 橋岡豪人: 温暖化シナリオ下において予期される低次生態系変動と酸性化 (2008年3月26-30日、日本海洋学会 2008年度春季大会)

57)志藤文武, 森岡泰三, 福永恭平, 村上直人, 市川卓, 小林圭介, 関谷幸生, 伊藤進一, 上野康弘: 水温がサンマ飼育魚の遊泳速度に与える影響 (2008年3月27日-31日、平成20年度日本水産学会春季大会)

58)山本彬友, 山中康裕, 田近英一: PETM におけるメタンハイドレート崩壊に伴う大気へのメタン放出割合の考察 (2008年1月7-8日、2007年度 古海洋シンポジウム)

59)山本彬友, 山中康裕, 田近英一: PETM におけるメタンハイドレート崩壊に伴う大気へのメタン放出割合の考察 (2008年1月5-6日、第6回地球システム・地球進化 ニューイ

ヤースクール)

- 60)吉田康平・山崎孝治：熱帯対流圏界面気温の熱帯海面水温の変化に対する応答（2008年5月29日、日本地球惑星科学連合2008年大会）
- 61)嶋田宇大・山崎孝治：北海道南西沖で発生した前線を伴ったポーラーロウの発達模様（2008年5月19日、日本気象学会春季大会）
- 62)嶋田宇大・山崎孝治：エネルギー収支と渦位から見た Polar low の発達メカニズム～2008年3月4日 Polar low 事例解析～（2008年12月16日、日本気象学会北海道支部研究発表会）
- 63)岩崎聡子・山崎孝治・渡部雅浩：帯状平均場の予測可能性（2008年10月30日、第6回異常気象と長期変動研究集会）
- 64)岩崎聡子・山崎孝治・渡部雅浩：帯状平均場の予測可能性（2008年11月19日、日本気象学会秋季大会）
- 65)岡田靖子・山崎孝治：沖縄地方の梅雨期の降雨－梅雨期中盤における一時的な少雨について－（2008年11月19日、日本気象学会秋季大会）
- 66)安井壮一郎・渡部雅浩：NLMBを用いた北半球大気循環の偏差場形成（2008年11月19日、日本気象学会秋季大会）
- 67)江淵 直人・佐野 稔：道北日本海の沿岸湧昇について－道北域沿岸水温データベースの解析から－（2008年9月25日、日本海洋学会）
- 68)二橋 創平・江淵 直人："Active と Passive のマイクロ波衛星データでみたオホーツクの沿岸ポリニヤ（2008年9月25日、日本海洋学会）
- 69)江淵 直人・佐野 稔：道北日本海の沿岸湧昇について－道北域沿岸水温データベースの解析から－(2008年11月11日、海洋理工学会)
- 70)二橋 創平・江淵 直人：Active と Passive のマイクロ波衛星観測からわかるオホーツクの沿岸ポリニヤの特徴（2008年12月2日、第31回極域気水圏シンポジウム）
- 71)嶋田 宏・澤田 真由美・田中 伊織・浅見 大樹・深町 康：北海道オホーツク海沿岸における麻痺性貝毒発生予測の試み（2008年3月27日、日本海洋学会）
- 72)深町 康・白澤 邦男・大島 慶一郎・Anatoliy Polomoshnov・Ervin Kalinin・Humfrey Melling・水田 元太・若土 正暁：オホーツク海サハリン北部沖における海水厚の係留観測（2008年3月28日、日本海洋学会）
- 73)深町 康・大島 慶一郎・青木 茂・Church John・Steve Rintoul・若土正暁：南極海インド洋セクターの南極底層水と深・底層循環（2008年7月31日、東京大学海洋研究所共同利用研究集会「太平洋の海洋循環と力学過程」）
- 74)深町 康・青木 茂・Church John A.・Rintou Stephen R.・Rosenberg Mark・若土 正暁：南極海インド洋セクターのケルゲレン海台東側斜面域における南極底層水の流量（2008年12月2日、第31回極域気水圏・生物圏合同シンポジウム）
- 75)Inai, Y., F. Hasebe, M. Fujiwara, M. Shiotani, N. Nishi, S.-Y. Ogino, H. Voemel :

Observational estimation of the 'cold trap' dehydration in the tropical tropopause layer:  
The water vapor MATCH (2008年5月20-23日、日本地球惑星科学連合2008年大会)

76)山下 和也、藤原忠誠、藤吉康志：地表付近に普遍的に存在するストリーク気流構造の特性 (2008年 2月29日、第2回航空気象研究会)

77)藤吉康志、川島正行、大井正行、中坪俊一、藤田和之、福士博樹、千貝 健：オホーツク海沿岸に設置した2台のXバンドドップラーレーダーを用いた海氷と雪雲の観測 (2) (2008年5月18日、日本気象学会)

78)藤原忠誠、山下和也、藤吉康志：ドップラーライダーで検出した「つむじ風」の特性と回転方向 (2008年5月18日、日本気象学会)

79)山下和也、藤原忠誠、中西幹郎、藤吉康志：大気境界層に普遍的に存在するストリーク構造の特性 (2008年5月18日、日本気象学会)

80)藤吉康志・菊田元美・山下和也・藤原忠誠：ドップラーライダーを用いた南極の対流圏中・下層大気の観測計画 (2008年5月18日、日本気象学会)

81)藤吉康志・川島正行：オホーツク海沿岸に設置した2台のXバンドドップラーレーダーを用いた海氷と雪雲の観測 (3) (2008年 6月20日、札幌 日本気象学会北海道支部)

82)川島正行・大竹秀明・藤吉康志：寒気吹き出し時に日本海北部に発生する太い筋雲の形成メカニズム (2008年12月16日 日本気象学会北海道支部)

83)山村育代、藤吉康志、南雲信宏、中川勝広、下舞豊志、村本健一郎：最大雨滴の気候学的特性 (2008年12月16日、日本気象学会北海道支部)

84)西濱洋介・池田元美： 随伴法を用いた準地衡流モデルへの同化による黒潮続流域変動の解明 (2008年3/26-3/30、2008年度日本海洋学会)

85)Hiraike, Y.: Descending Water at the Antarctic marginal ice zone and its contribution to the Intermediate Water using an ice-ocean model (2008年5/29、2008年度地球惑星科学連合大会)

86)平池友梨・池田元美： 海氷海洋結合モデルを用いた南極海氷縁域での表層水の沈降とその中層水形成における役割 (2008年9/25、2008年度日本海洋学会春季大会)

87)大島慶一郎： 海氷の気候システムに果たす役割に関する研究,(11月20日、日本気象学会)

88)田村 岳史, 大島 慶一郎, 二橋 創平：北極海における海氷生産量マッピング(2008年3月26-30日、日本海洋学会春季大会)

89)中野渡拓也, 三寺史夫, 本井達夫, 大島慶一郎, 石川一郎：北太平洋西部の中層水に見られる数十年スケールの低温化-循環境界を横切る輸送量の影響-, (2008年9月24-28日、日本海洋学会秋季大会)

90)田村 岳史: 東南極ケープダーンレーポリニヤの形成・変動機構 (2008年9月24-28日、日本海洋学会秋季大会)

91)田村 岳史, 大島 慶一郎, 二橋 創平：北極海沿岸ポリニヤにおける海氷生産量の見積も

- り (2008年12月2日-5日、国立極地研究所 極域気水圏シンポジウム)
- 92)中田淳子、玉川一郎、村岡裕由、渡辺力、吉野純、安田孝、里村雄彦：群落微気候モデルを用いた高山落葉広葉樹林サイト TKY における二酸化炭素収支の推定 (2008年5月21日、日本気象学会 2008年度春季大会)
- 93)渡辺 力：植生-大気相互作用の観測とモデリングにおける問題. (2008年7月3日、第6回水文・水資源学会セミナー)
- 94)中田淳子、玉川一郎、村岡裕由、渡辺力、吉野純、安田孝、里村雄彦：群落微気候モデル MINCER を用いた高山落葉広葉樹林サイト TKY における熱フラックスの推定. (2008年11月21日、日本気象学会 2008年度秋季大会)
- 95)豊田威信、Haas, C.、Nicolaus, M.、Li, Z.、青木茂：晩冬季のウェッデル海北西部海氷上の積雪の特性について (2008年12月3日、第31回極域気水圏シンポジウム)
- 96)豊田威信、Haas, C.： ウェッデル海氷縁域における比較的小さな氷盤の大きさ分布について (2008年12月2日、国立極地研究所、東京 第31回極域気水圏シンポジウム)
- 97)野村 大樹、豊田 威信、的場 澄人、西岡 純、白澤 邦男： オホーツク海南部の海氷および海氷上積雪の栄養塩濃度分布について (2008年9月24-27日、日本雪氷学会)
- 98)豊田威信、上村治睦、小野修史、矢口龍太、長幸平： PALSAR によるオホーツク海の氷厚分布推定の検証観測 (2008年9月25日、日本海洋学会秋季大会)
- 99)野村大樹、豊田威信、的場澄人、西岡純、白澤邦男：オホーツク海の海氷中栄養塩濃度について - 砕氷船「そうや」による「観測から」 (2008年7月16-17日、海環境と生物および沿岸環境修復技術に関するシンポジウム)